

杭頭接合法

ジョイントカブラ工法[®]標準図

(一財)日本建築センター評定
国土交通大臣認定

BCJ評定-FD0554
MSTL-0484, 0532

センクシア株式会社

URL http://www.senqcia.co.jp/

2021/08

本社 TEL 03-4214-1932

札幌 TEL 011-708-1177

中部 TEL 052-582-3356

中四国 TEL 082-240-1630

東北 TEL 022-213-5595

北陸 TEL 076-233-5260

九州 TEL 092-452-0341

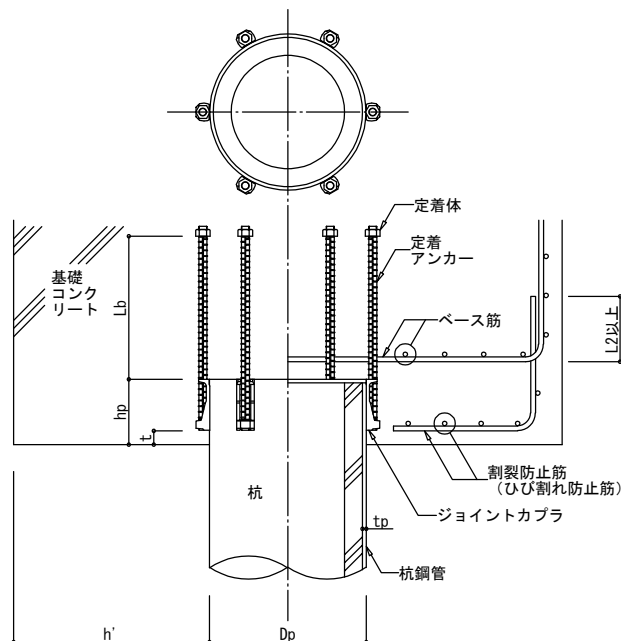
関東 TEL 027-322-9411

関西 TEL 06-6395-2133

設計・施工の詳細は、ジョイントカブラ工法「設計・施工指針」に準拠する。
現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

1. 概要

ジョイントカブラ工法は、SC杭および鋼管杭の杭頭部にジョイントカブラを溶接した後、上端に定着体を有する定着アンカーの下端をジョイントカブラに螺合し、さらにジョイントカブラ内および杭頭部の周囲にコンクリートを打設することによって、杭頭部とパイルキャップを一体化する工法である。



項目	内容
Dp : 杭径 (mm)	SC杭 : 400 ≤ Dp ≤ 1200 鋼管杭 : 400 ≤ Dp ≤ 1500
tp : 鋼管板厚 (mm) ※1	tp ≥ 9
hp : 杭頭部の埋込み長 (mm) ※2	hp ≥ 330
t : 設計かぶり厚 (mm)	t ≥ 70
Lb : 定着長 (mm) ※3	Lb ≥ 16db (db=41mm)
h' : へりあき (mm)	h' ≥ 200 かつ構造耐力上必要な寸法以上
割裂防止筋 (ひび割れ防止筋)	タテヨコD13@300mm以下
Fc : 設計基準強度 (N/mm ²)	24 ≤ Fc ≤ 60

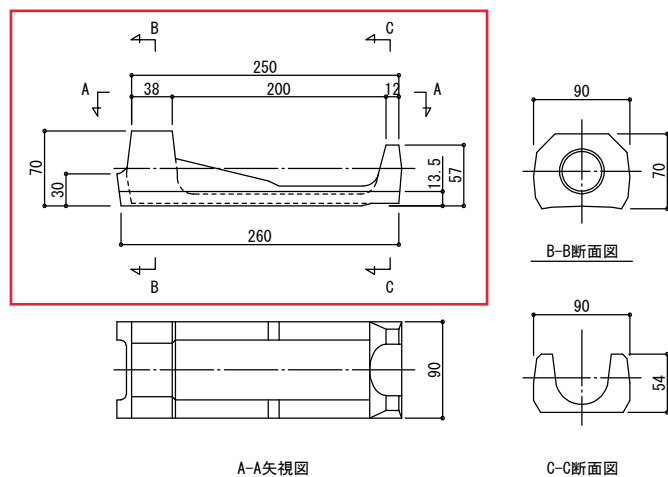
※1 杭材質SKK400相当は使用不可。
※2 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。
※3 定着長は、ジョイントカブラ上端から定着体下端までの長さ。

設置可能本数上限 (設置可能本数下限は4本)

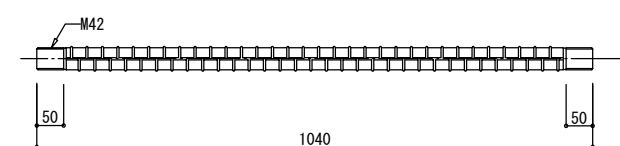
杭径 (mm)	400	450	500	600	700
本数 (本)	9	10	11	13	16
杭径 (mm)	800	900	1000	1100	1200
本数 (本)	18	20	22	24	26

2. 形状

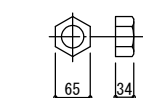
ジョイントカブラ (国土交通大臣認定品 MSTL-0484, 0532, SN490B相当)



定着アンカー D41 (JIS G3112、材質: SD490)

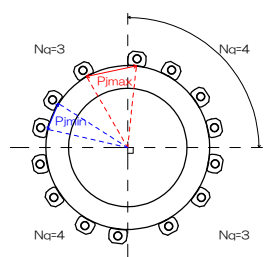


定着体 (JIS B1052、強度区分5以上)



施工配置条件

- 定着アンカーの配置本数は偶数を基本とすること。
- 90度 (周長の1/4) の範囲に配置する本数Nqは配置本数の約1/4にすること。
90度の範囲は基礎梁の方向に沿って区画された範囲とする。
区画の境界に配置する場合には、一方で含め、他方では含めないように数える。
- 隣り合うジョイントカブラの間隔Pjは、最小配置間隔Pjmin以上、最大配置間隔Pjmax以下であること。
Pjmin ≤ Pj ≤ Pjmax
(特許6585146号)



杭符号	杭径 (mm)	仕様	施工配置条件	
			90度範囲配置本数 Nq	最大配置間隔 Pjmax (mm)
※ 詳細は杭リスト参照				

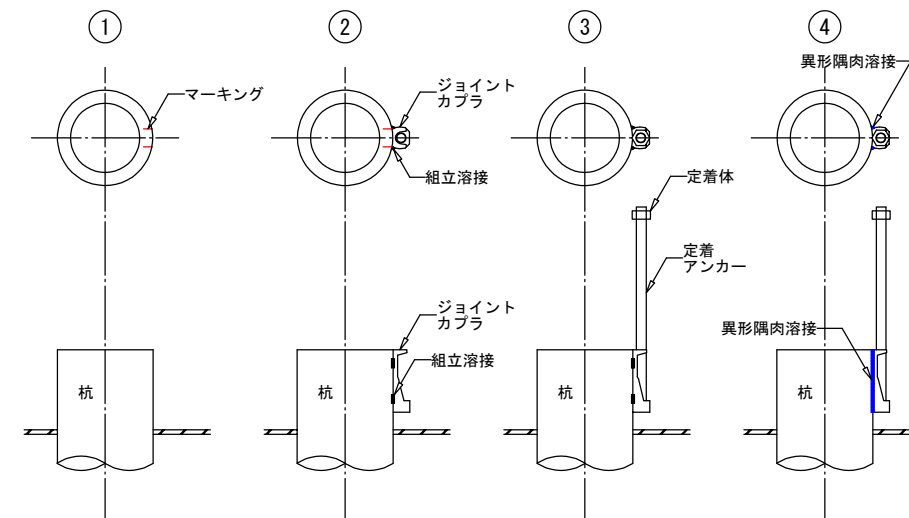
3. 施工

3.1. 施工管理および施工

本工法の施工管理は、評定取得会社により教育・技術指導を受けた現場管理者が行うことが義務づけられている。溶接は被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接の資格者が行うこと。

3.2. 施工手順

- ジョイントカブラ取付け位置の清掃とマーキング
 - ジョイントカブラの組立溶接
ジョイントカブラの配置検査
 - 定着アンカーのねじ込み
定着体の取付け
定着アンカー接合部の検査
 - ジョイントカブラの溶接 (異形隅肉溶接)
ジョイントカブラ溶接部の検査 (外観検査)
- 完了



- 注1) 定着アンカーの曲げ加工はできないため、配筋の干渉をよく確認すること。
注2) 上記は標準的な施工例である。現場の状況等により適切な施工手順を選択すること。
注3) ジョイントカブラと定着アンカーのねじ部が汚れないよう、搬入後は養生し、組立溶接後は速やかに定着アンカーのねじ込みを行うこと。
注4) 溶接材料は下記の規格を満たし、490N/mm²級高張力鋼に適用可能なものを使用する。
被覆アーク溶接: 軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒 (JIS Z3211、旧JIS Z3212-1999)
ガスシールドアーク溶接: 軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ (JIS Z3312)
軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ (JIS Z3313)

3.3. 検査項目

本標準図以外の検査項目および検査基準は施工管理チェックシートによる。

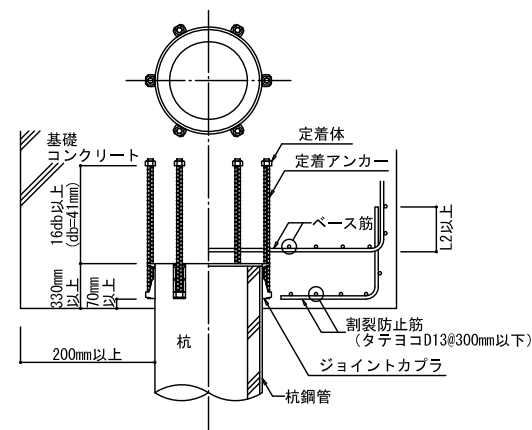
- 隣接するジョイントカブラの間隔は132mm以上とする。
- ジョイントカブラの高さ方向の取付け位置に対する許容差は+0mmかつ-5mmとする。
ジョイントカブラのめねじ部に差し込んだ定着アンカーのおねじ部は残り2山以下とする。
- 異形隅肉溶接は溶接目印以上かつ脚長8mm以上とする。
- 定着アンカーの傾きの許容差は±1/100とする。
- ジョイントカブラの溶接長は溶接始端・終端の余長を含み260mm以上とする。
- ジョイントカブラの横方向の取付け位置に対する許容差は±3mmとする。

ジョイントカプラ工法[®] 施工要領図

(一財)日本建築センター評定 BCU評定-FD0554
国土交通大臣認定 MSTL-0484, 0532

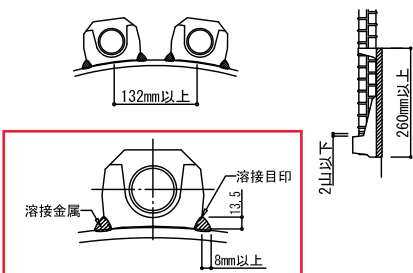
1. 設計・施工の詳細は、ジョイントカプラ工法「設計・施工指針」に準拠する。
2. 現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

杭頭接合部詳細図



検査項目 下図以外の検査項目は施工管理チェックシートによる。

- ・隣接するジョイントカプラの間隔は132mm以上とする。
- ・異形隅肉溶接は溶接目印以上かつ脚長8mm以上とする。
- ・ジョイントカプラのめねじ部に差し込んだ定着アンカーのおねじ部は残り2山以下とする。
- ・ジョイントカプラの溶接長は接始端・終端の余長を含み260mm以上とする。
- ・定着アンカーの曲げ加工はできない。

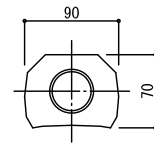
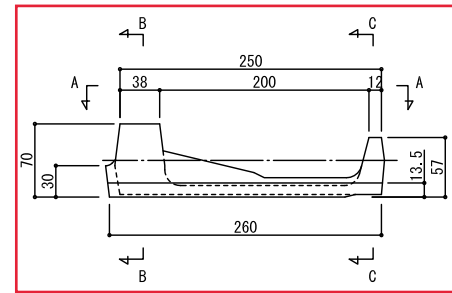


※ 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。
 ※ 基礎コンクリートの設計基準強度 $24 \leq F_c \leq 60$ (N/mm²)

ジョイントカプラ工法[®] 部品図

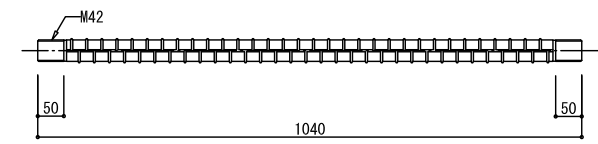
(一財)日本建築センター 評定 BCJ評定-FD0554
国土交通大臣認定 MSTL-0484, 0532

ジョイントカプラ (国土交通大臣認定品 MSTL-0484, 0532、SN490B相当)

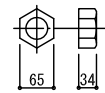


B-B断面図

定着アンカー D41 (JIS G3112、材種: SD490)



定着体 (JIS B1052、強度区分5以上)



A-A矢視図

C-C断面図

杭頭接合法

ジョイントカブラ工法[®]標準図

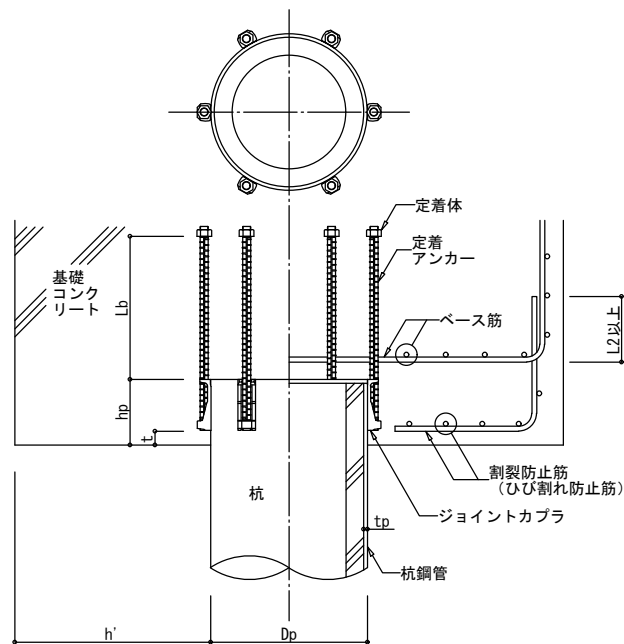
(一財)日本建築センター評定 BGJ評定-FD0554, FD0555
国土交通大臣認定 MSTL-0484, 0532

本社 TEL 03-4214-1932 札幌 TEL 011-708-1177 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
東北 TEL 022-213-5595 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341
関東 TEL 027-322-9411 関西 TEL 06-6395-2133

設計・施工の詳細は、ジョイントカブラ工法「設計・施工指針」に準拠する。
現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

1. 概要

ジョイントカブラ工法は、SC杭および鋼管杭の杭頭部にジョイントカブラを溶接した後、上端に定着体を有する定着アンカーの下端をジョイントカブラに螺合し、さらにジョイントカブラ内および杭頭部の周囲にコンクリートを打設することによって、杭頭部とパイルキャップを一体化する工法である。



項目	内容
Dp: 杭径 (mm)	SC杭 : 400 ≤ Dp ≤ 1200 鋼管杭 : 400 ≤ Dp ≤ 1500
tp: 鋼管板厚 (mm) ※1	tp ≥ 9
hp: 杭頭部の埋込み長 (mm) ※2	hp ≥ 330
t: 設計かぶり厚 (mm)	t ≥ 70
Lb: 定着長 (mm) ※3	Lb ≥ 16db (db=41mm)
h': へりあき (mm)	h' ≥ 200 かつ構造耐力上必要な寸法以上
割裂防止筋 (ひび割れ防止筋)	タテヨコD13@300mm以下
Fc: 設計基準強度 (N/mm ²)	24 ≤ Fc ≤ 60

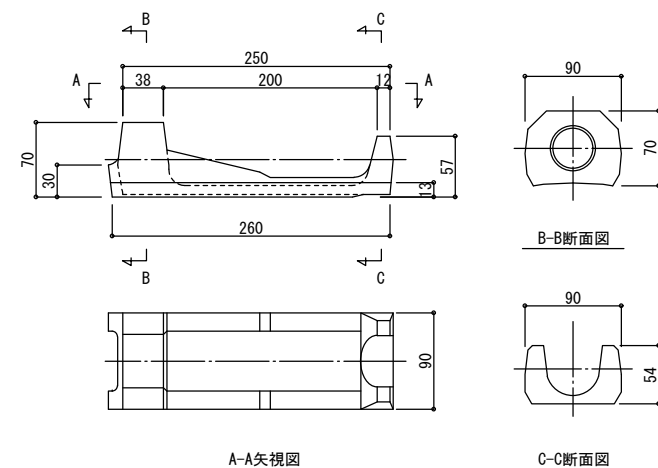
※1 杭材質SKK400相当は使用不可。
※2 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。
※3 定着長は、ジョイントカブラ上端から定着体下端までの長さ。

設置可能本数上限 (設置可能本数下限は4本)

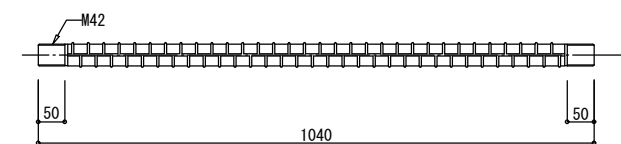
杭径 (mm)	400	450	500	600	700
本数 (本)	9	10	11	13	16
杭径 (mm)	800	900	1000	1100	1200
本数 (本)	18	20	22	24	26

2. 形状

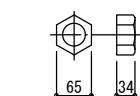
ジョイントカブラ (国土交通大臣認定品 MSTL-0484, 0532, SN490B相当)



定着アンカー D41 (JIS G3112、材質: SD490)



定着体 (JIS B1052、強度区分5以上)



施工配置条件

①定着アンカーの配置本数は偶数を基本とすること。
②90度 (周長の1/4) の範囲に配置する本数Nqは配置本数の約1/4にすること。
90度の範囲は基礎梁の方向に沿って区画された範囲とする。
区画の境界に配置する場合には、一方を含め、他方では含めないように数える。
③隣り合うジョイントカブラの間隔Pjは、最小配置間隔Pjmin以上、最大配置間隔Pjmax以下であること。
Pjmin ≤ Pj ≤ Pjmax (特許6585146号)

表1 ジョイントカブラ工法 定着アンカーの仕様

杭符号	杭径 (mm)	仕様	施工配置条件	
			90度範囲配置本数 Nq	最小配置間隔 Pjmin (mm)
※ 詳細は杭リスト参照				

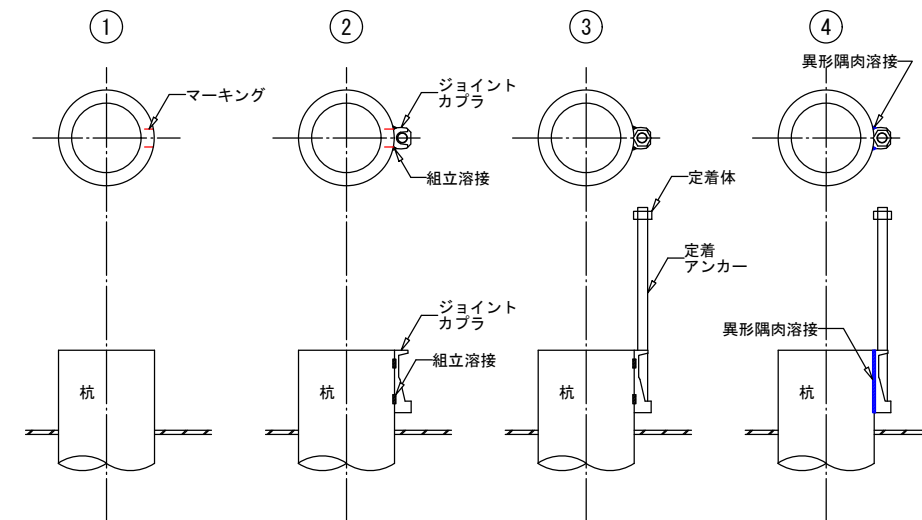
3. 施工

3.1. 施工管理および施工

本工法の施工管理は、評定取得会社により教育・技術指導を受けた現場管理者が行うことが義務づけられている。溶接は被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接の資格者が行うこと。

3.2. 施工手順

- ① ジョイントカブラ取付け位置の清掃とマーキング
 - ② ジョイントカブラの組立溶接
ジョイントカブラの配置検査
 - ③ 定着アンカーのねじ込み
定着体の取付け
定着アンカー接合部の検査
 - ④ ジョイントカブラの溶接 (異形隅肉溶接)
ジョイントカブラ溶接部の検査 (外観検査)
- 完了



- 注1) 定着アンカーの曲げ加工はできないため、配筋の干渉をよく確認すること。
注2) 上記は標準的な施工例である。現場の状況等により適切な施工手順を選択すること。
注3) ジョイントカブラと定着アンカーのねじ部が汚れないよう、搬入後は養生し、組立溶接後は速やかに定着アンカーのねじ込みを行うこと。
注4) 溶接材料は下記の規格を満たし、490N/mm²級高張力鋼に適用可能なものを使用する。
被覆アーク溶接: 軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒 (JIS Z3211、旧JIS Z3212-1999)
ガスシールドアーク溶接: 軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ (JIS Z3312)
軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ (JIS Z3313)

3.3. 検査項目

本標準図以外の検査項目および検査基準は施工管理チェックシートによる。

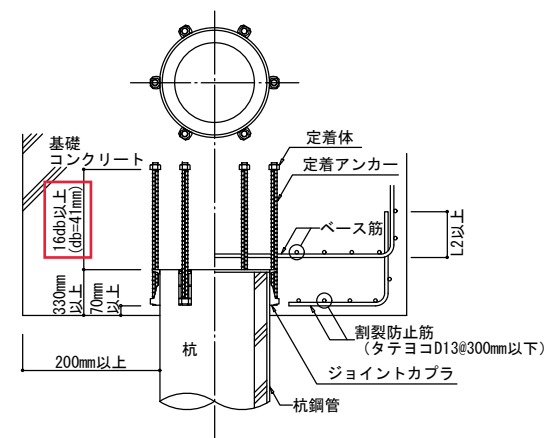
- 隣接するジョイントカブラの間隔は132mm以上とする。
- ジョイントカブラの高さ方向の取付け位置に対する許容差は+0mmかつ-5mmとする。
- ジョイントカブラのめねじ部に差し込んだ定着アンカーのおねじ部は残り2山以下とする。
- 異形隅肉溶接は溶接目印以上とする。
- 定着アンカーの傾きの許容差は±1/100とする。
- ジョイントカブラの横方向の取付け位置に対する許容差は±3mmとする。
- ジョイントカブラの溶接長は溶接始端・終端の余長を含み260mm以上とする。

ジョイントカブラ工法[®]施工要領図

(一財)日本建築センター評定 BCGJ評定-FD0554, FD0555
国土交通大臣認定 MSTL-0484, 0532

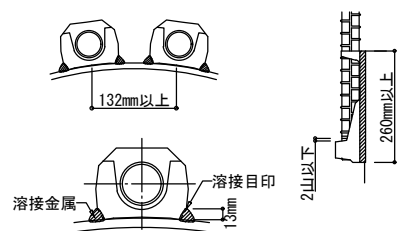
1. 設計・施工の詳細は、ジョイントカブラ工法「設計・施工指針」に準拠する。
2. 現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

杭頭接合部詳細図



検査項目 下図以外の検査項目は施工管理チェックシートによる。

- ・隣接するジョイントカブラの間隔は132mm以上とする。
- ・異形隅肉溶接は溶接目印以上とする。
- ・ジョイントカブラのめねじ部に差し込んだ定着アンカーのおねじ部は残り2山以下とする。
- ・ジョイントカブラの溶接長は接始端・終端の余長を含み260mm以上とする。
- ・定着アンカーの曲げ加工はできない。

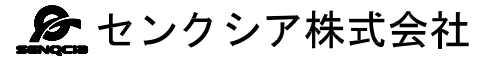


- ※ 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。
- ※ 基礎コンクリートの設計基準強度 $24 \leq F_c \leq 60$ (N/mm²)

杭頭接合法

ジョイントカプラ工法[®]標準図

(一財)日本建築センター評定 BCJ評定-FD0554, FD0555
国土交通大臣認定 MSTL-0484, 0532



URL <http://www.senqcia.co.jp/>

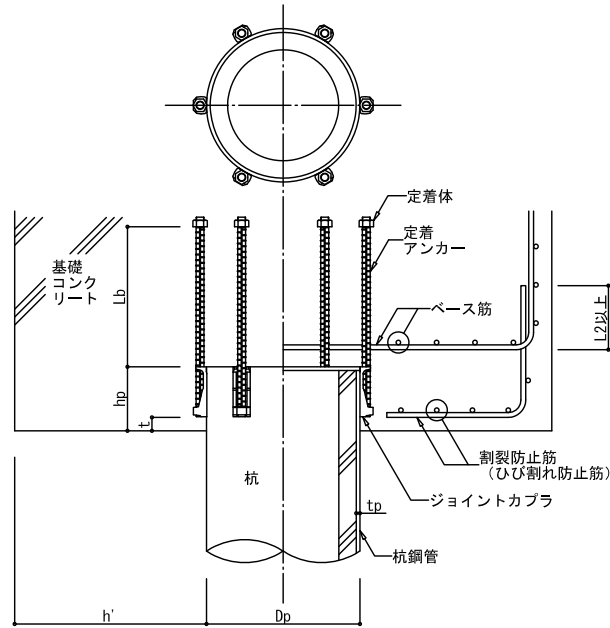
2019/10

本社 TEL 03-4214-1932 札幌 TEL 011-708-1177 横浜 TEL 03-4214-1945 関西 TEL 06-6395-2133
東北 TEL 022-213-5595 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
関東 TEL 027-322-9411 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

設計・施工の詳細は、ジョイントカプラ工法「設計・施工指針」に準拠する。
現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

1. 概要

ジョイントカプラ工法は、SC杭および鋼管杭の杭頭部にジョイントカプラを溶接した後、上端に定着体を有する定着アンカーの下端をジョイントカプラに螺合し、さらにジョイントカプラ内および杭頭部の周囲にコンクリートを打設することによって、杭頭部とパイルキャップを一体化する工法である。



構造規定

項目	内容
Dp: 杭径 (mm)	SC杭 : $400 \leq Dp \leq 1200$ 鋼管杭 : $400 \leq Dp \leq 1500$
tp: 鋼管板厚 (mm) ※1	tp ≥ 9
hp: 杭頭部の埋込み長 (mm) ※2	hp ≥ 330
t: 設計かぶり厚 (mm)	t ≥ 70
Lb: 定着長 (mm) ※3	Lb ≥ 710
h': へりあき (mm)	h' ≥ 200 かつ構造耐力上必要な寸法以上
割れ防止筋 (ひび割れ防止筋)	タテヨコD13@300mm以下
Fc: 設計基準強度 (N/mm ²)	$24 \leq Fc \leq 60$

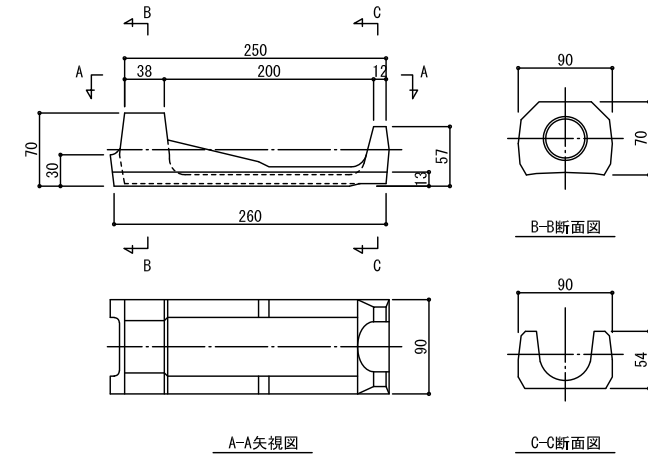
※1 杭材質SKK400相当は使用不可。
※2 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。
※3 定着長は、ジョイントカプラ上端から定着体下端までの長さ。

設置可能本数上限 (設置可能本数下限は4本)

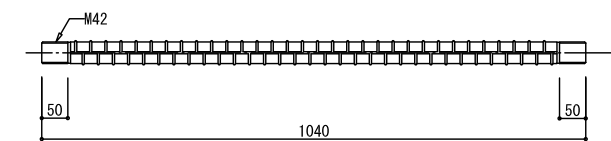
杭径 (mm)	400	450	500	600	700
本数 (本)	9	10	11	13	16
杭径 (mm)	800	900	1000	1100	1200
本数 (本)	18	20	22	24	26

2. 形状

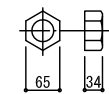
ジョイントカプラ (国土交通大臣認定品 MSTL-0484, 0532, SN490B相当)



定着アンカー D41 (JIS G3112、材質: SD490)



定着体 (JIS B1052、強度区分5以上)



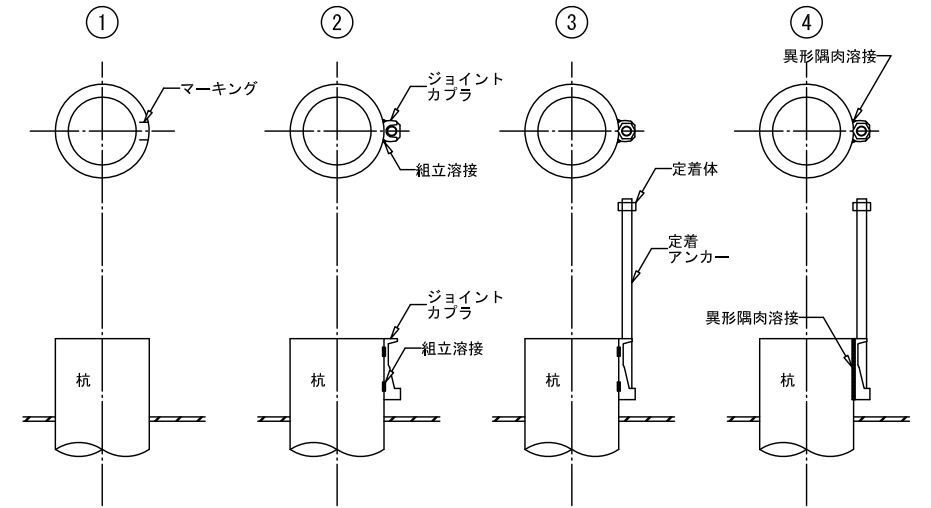
3. 施工

3.1. 施工管理および施工

本工法の施工管理は、評定取得会社により教育・技術指導を受けた現場管理者が行うことが義務づけられている。
溶接は被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接の資格者が行うこと。

3.2. 施工手順

- ① ジョイントカプラ取付け位置の清掃とマーキング
 - ② ジョイントカプラの組立溶接
ジョイントカプラの配置検査
 - ③ 定着アンカーのねじ込み
定着体の取付け
定着アンカー接合部の検査
 - ④ ジョイントカプラの溶接 (異形隅肉溶接)
ジョイントカプラ溶接部の検査 (外観検査)
- 完了



- 注1) 定着アンカーの曲げ加工はできないため、配筋の干渉をよく確認すること。
注2) 上記は標準的な施工例である。現場の状況等により適切な施工手順を選択すること。
注3) ジョイントカプラと定着アンカーのねじ部が汚れないよう、搬入後は養生し、組立溶接後は速やかに定着アンカーのねじ込みを行うこと。
注4) 溶接材料は下記の規格を満たし、490N/mm²級高張力鋼に適用可能なものを使用する。
被覆アーク溶接: 軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒 (JIS Z3211、旧JIS Z3212-1999)
ガスシールドアーク溶接:
軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ (JIS Z3312)
軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ (JIS Z3313)

3.3. 検査項目

本標準図以外の検査項目および検査基準は施工管理チェックシートによる。

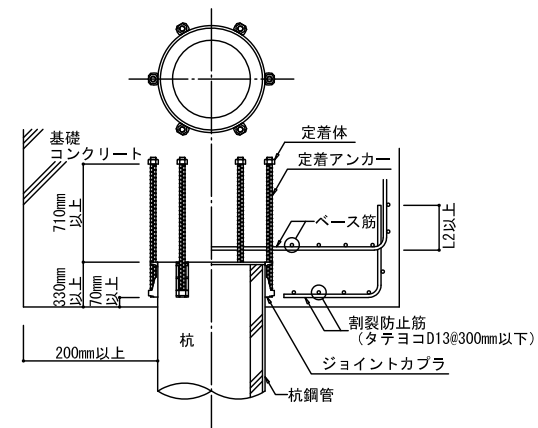
- 隣接するジョイントカプラの間隔は132mm以上とする。
- ジョイントカプラの高さ方向の取付け位置に対する許容差は+0mmかつ-5mmとする。
ジョイントカプラのめねじ部に差し込んだ定着アンカーのおねじ部は残り2山以下とする。
- 異形隅肉溶接は溶接目印以上とする。
- 定着アンカーの傾きの許容差は±1/100とする。
- ジョイントカプラの溶接長は溶接始端・終端の余長を含み260mm以上とする。
- ジョイントカプラの横方向の取付け位置に対する許容差は±3mmとする。

ジョイントカブラ工法[®] 施工要領図

(一財)日本建築センター評定 BCG評定-FD0554, FD0555
国土交通大臣認定 MSTL-0484 **0532**

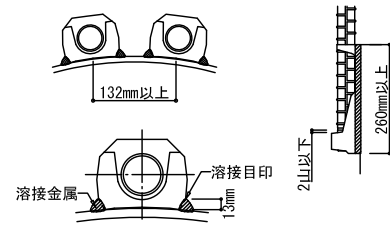
1. 設計・施工の詳細は、ジョイントカブラ工法「設計・施工指針」に準拠する。
2. 現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

杭頭接合部詳細図



検査項目

- 下図以外の検査項目は施工管理チェックシートによる。
- ・隣接するジョイントカブラの間隔は132mm以上とする。
 - ・異形隅肉溶接は溶接目印以上とする。
 - ・ジョイントカブラのめねじ部に差し込んだ定着アンカーのおねじ部は残り2山以下とする。
 - ・ジョイントカブラの溶接長は接始端・終端の余長を含み260mm以上とする。
 - ・定着アンカーの曲げ加工はできない。

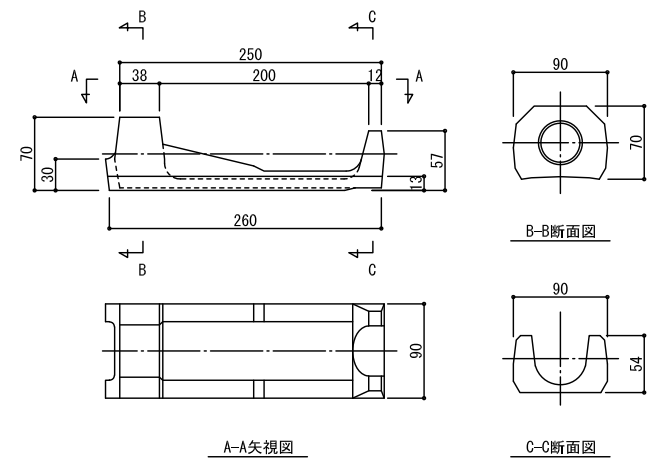


※ 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。
 ※ 基礎コンクリートの設計基準強度 $24 \leq F_c \leq 60$ (N/mm²)

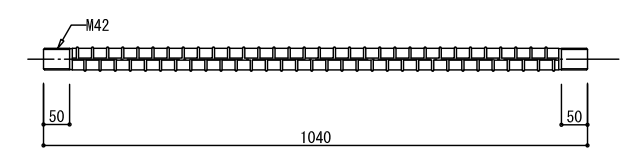
ジョイントカプラ工法[®] 部品図

(一財)日本建築センター 認定 BCJ 評定-FD0554, FD0555
国土交通大臣認定 MSTL-0484, **0532**

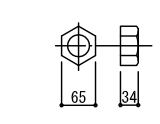
ジョイントカプラ (国土交通大臣認定品 MSTL-0484, **0532** SN490B相当)



定着アンカー D41 (JIS G3112、材種: SD490)



定着体 (JIS B1052、強度区分5以上)



杭頭接合法

ジョイントカプラ工法[®]標準図

(一財)日本建築センター評定 BCJ評定-FD0554, FD0555
国土交通大臣認定 MSTL-0484



本社 TEL 03-4214-1932

札幌 TEL 011-708-1177
東北 TEL 022-213-5595
関東 TEL 027-322-9411

URL <http://www.senqcia.co.jp/>

横浜 TEL 03-4214-1945
中部 TEL 052-582-3356
北陸 TEL 076-233-5260

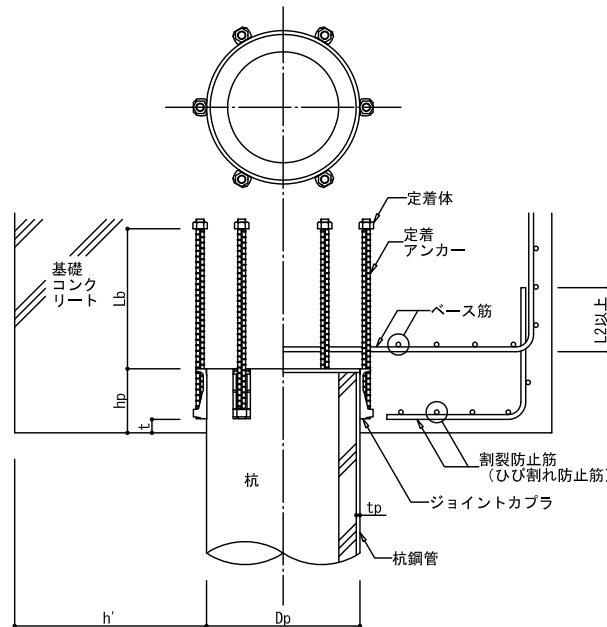
関西 TEL 06-6395-2133
中四国 TEL 082-240-1630
九州 TEL 092-452-0341

2019/6

設計・施工の詳細は、ジョイントカプラ工法「設計・施工指針」に準拠する。
現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

1. 概要

ジョイントカプラ工法は、SC杭および鋼管杭の杭頭部にジョイントカプラを溶接した後、上端に定着体を有する定着アンカーの下端をジョイントカプラに螺合し、さらにジョイントカプラ内および杭頭部の周囲にコンクリートを打設することによって、杭頭部とパイルキャップを一体化する工法である。



構造規定

項目	内容
Dp : 杭径 (mm)	SC杭 : $400 \leq Dp \leq 1200$ 鋼管杭 : $400 \leq Dp \leq 1500$
tp : 鋼管板厚 (mm) *1	tp ≥ 9
hp : 杭頭部の埋込み長 (mm) *2	hp ≥ 330
t : 設計かぶり厚 (mm)	t ≥ 70
Lb : 定着長 (mm) *3	Lb ≥ 710
h' : へりあき (mm)	h' ≥ 200 かつ構造耐力上必要な寸法以上
割れ防止筋 (ひび割れ防止筋)	タテヨコD13@300mm以下
Fc : 設計基準強度 (N/mm ²)	$24 \leq Fc \leq 60$

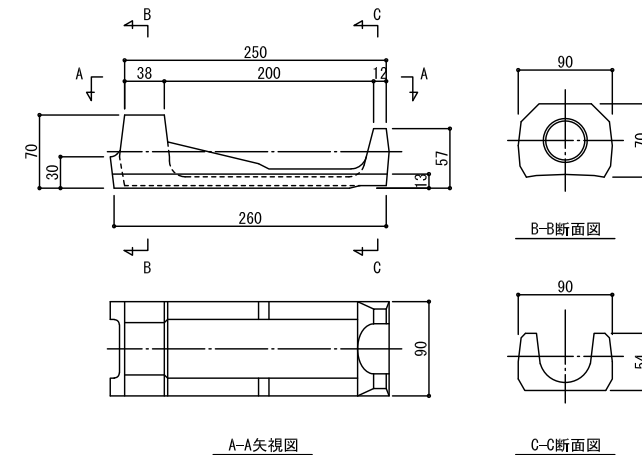
*1 杭材質SKK400相当は使用不可。
*2 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。
*3 定着長は、ジョイントカプラ上端から定着体下端までの長さ。

設置可能本数上限 (設置可能本数下限は4本)

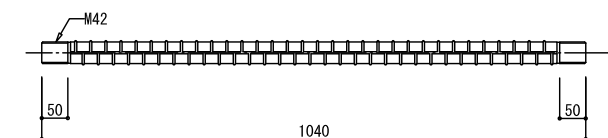
杭径 (mm)	400	450	500	600	700
本数 (本)	9	10	11	13	16
杭径 (mm)	800	900	1000	1100	1200
本数 (本)	18	20	22	24	26

2. 形状

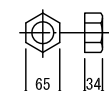
ジョイントカプラ (国土交通大臣認定品 MSTL-0484, SN490B相当)



定着アンカー D41 (JIS G3112、材質 : SD490)



定着体 (JIS B1052、強度区分5以上)



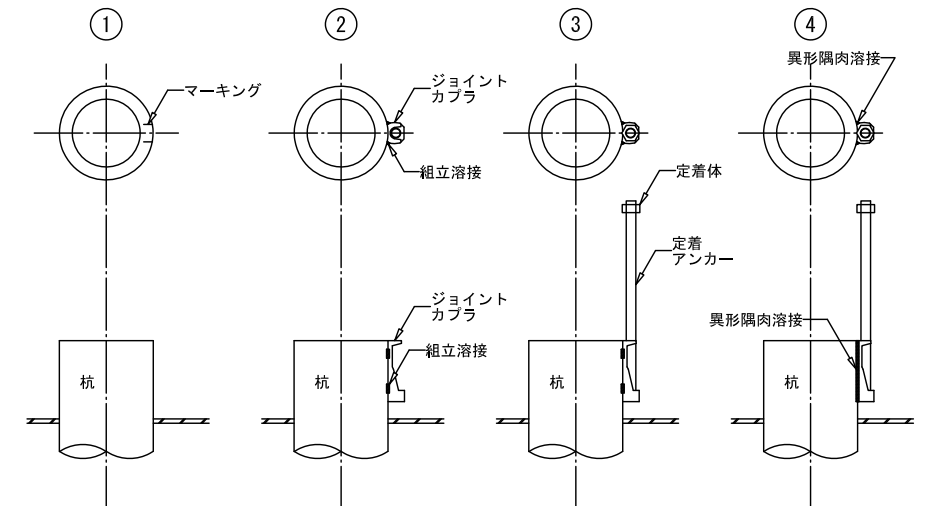
3. 施工

3.1. 施工管理および施工

本工法の施工管理は、評定取得会社により教育・技術指導を受けた現場管理者が行うことが義務づけられている。
溶接は被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接の資格者が行うこと。

3.2. 施工手順

- ① ジョイントカプラ取付け位置の清掃とマーキング
 - ② ジョイントカプラの組立溶接
ジョイントカプラの配置検査
 - ③ 定着アンカーのねじ込み
定着体の取付け
定着アンカー接合部の検査
 - ④ ジョイントカプラの溶接 (異形隅肉溶接)
ジョイントカプラ溶接部の検査 (外観検査)
- 完了



- 注1) 定着アンカーの曲げ加工はできないため、配筋の干渉をよく確認すること。
注2) 上記は標準的な施工例である。現場の状況等により適切な施工手順を選択すること。
注3) ジョイントカプラと定着アンカーのねじ部が汚れないよう、搬入後は養生し、組立溶接後は速やかに定着アンカーのねじ込みを行うこと。
注4) 溶接材料は下記の規格を満たし、490N/mm²級高張力鋼に適用可能なものを使用する。
被覆アーク溶接 : 軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒 (JIS Z3211、旧JIS Z3212-1999)
ガスシールドアーク溶接 : 軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ (JIS Z3312)
軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ (JIS Z3313)

3.3. 検査項目

本標準図以外の検査項目および検査基準は施工管理チェックシートによる。

- 隣接するジョイントカプラの間隔は132mm以上とする。
- ジョイントカプラの高さ方向の取付け位置に対する許容差は+0mmかつ-5mmとする。
ジョイントカプラのめねじ部に差し込んだ定着アンカーのおねじ部は残り2山以下とする。
- 異形隅肉溶接は溶接目印以上とする。
- 定着アンカーの傾きの許容差は±1/100とする。
- ジョイントカプラの溶接長は溶接始端・終端の余長を含み260mm以上とする。
- ジョイントカプラの横方向の取付け位置に対する許容差は±3mmとする。

杭頭接合法

ジョイントカプラ工法[®]標準図

(一財)日本建築センター評定 BCJ評定-FD0554, FD0555
国土交通大臣認定 MSTL-0484

センクシア株式会社

URL <http://www.senqcia.co.jp/>

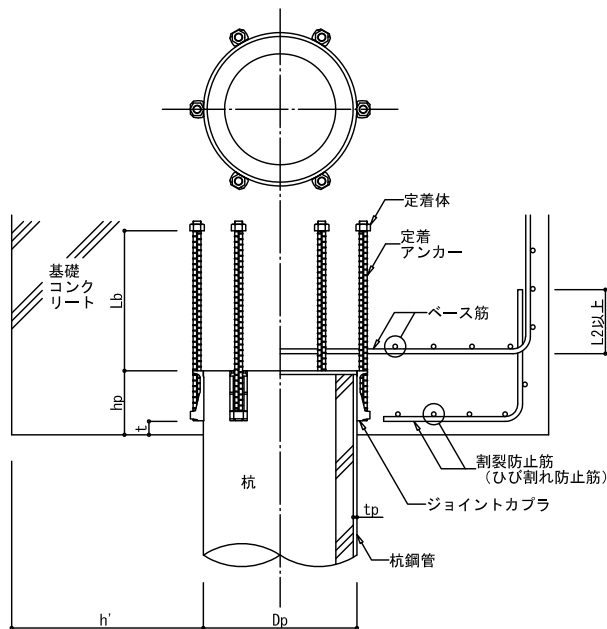
2018/12

本社 TEL 03-3615-5432 札幌 TEL 011-708-1177 横浜 TEL 045-548-9881 関西 TEL 06-6395-2133
東北 TEL 022-213-5595 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
関東 TEL 027-322-9411 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

設計・施工の詳細は、ジョイントカプラ工法「設計・施工指針」に準拠する。
現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

1. 概要

ジョイントカプラ工法は、SC杭および鋼管杭の杭頭部にジョイントカプラを溶接した後、上端に定着体を有する定着アンカーの下端をジョイントカプラに螺合し、さらにジョイントカプラ内および杭頭部の周囲にコンクリートを打設することによって、杭頭部とパイルキャップを一体化する工法である。



構造規定

項目	内容
Dp : 杭径 (mm)	SC杭 : 400 ≤ Dp ≤ 1200 鋼管杭 : 400 ≤ Dp ≤ 1500
tp : 鋼管板厚 (mm) *1	tp ≥ 9
hp : 杭頭部の埋込み長 (mm) *2	hp ≥ 330
t : 設計かぶり厚 (mm)	t ≥ 70
Lb : 定着長 (mm) *3	Lb ≥ 710
h' : へりあき (mm)	h' ≥ 200 かつ構造耐力上必要な寸法以上
割れ防止筋 (ひび割れ防止筋)	タテヨコD13@300mm以下
Fc : 設計基準強度 (N/mm ²)	24 ≤ Fc ≤ 60

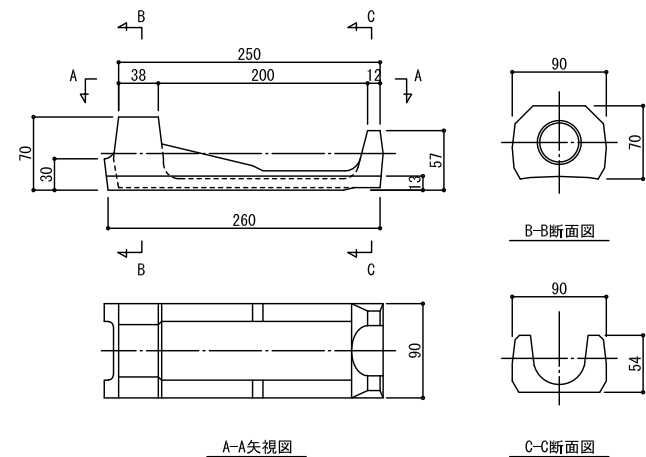
*1 杭材質SKK400相当は使用不可。
*2 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。
*3 定着長は、ジョイントカプラ上端から定着体下端までの長さ。

設置可能本数上限 (設置可能本数下限は4本)

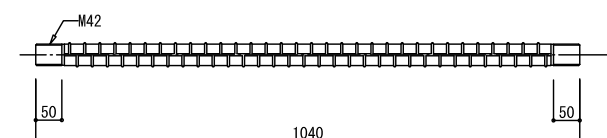
杭径 (mm)	400	450	500	600	700
本数 (本)	9	10	11	13	16
杭径 (mm)	800	900	1000	1100	1200
本数 (本)	18	20	22	24	26

2. 形状

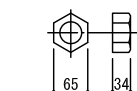
ジョイントカプラ (国土交通大臣認定品 MSTL-0484、SN490B相当)



定着アンカー D41 (JIS G3112、材質: SD490)



定着体 (JIS B1052、強度区分5以上)



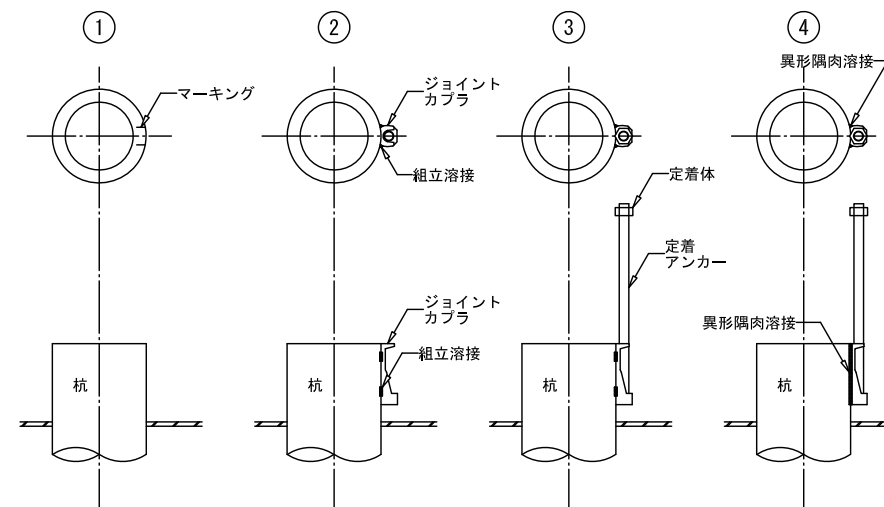
3. 施工

3.1. 施工管理および施工

本工法の施工管理は、評定取得会社により教育・技術指導を受けた現場管理者が行うことが義務づけられている。
溶接は被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接の資格者が行うこと。

3.2. 施工手順

- ① ジョイントカプラ取付け位置の清掃とマーキング
 - ② ジョイントカプラの組立溶接
ジョイントカプラの配置検査
 - ③ 定着アンカーのねじ込み
定着体の取付け
定着アンカー接合部の検査
 - ④ ジョイントカプラの溶接 (異形隅肉溶接)
ジョイントカプラ溶接部の検査 (外観検査)
- 完了



注1) 定着アンカーの曲げ加工はできないため、配筋の干渉をよく確認すること。
注2) 上記は標準的な施工例である。現場の状況等により適切な施工手順を選択すること。
注3) ジョイントカプラと定着アンカーのねじ部が汚れないよう、搬入後は養生し、組立溶接後は速やかに定着アンカーのねじ込みを行うこと。
注4) 溶接材料は下記の規格を満たし、490N/mm²級高張力鋼に適用可能なものを使用する。
被覆アーク溶接: 軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒 (JIS Z3211、旧JIS Z3212-1999)
ガスシールドアーク溶接:
軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ (JIS Z3312)
軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ (JIS Z3313)

3.3. 検査項目

本標準図以外の検査項目および検査基準は施工管理チェックシートによる。

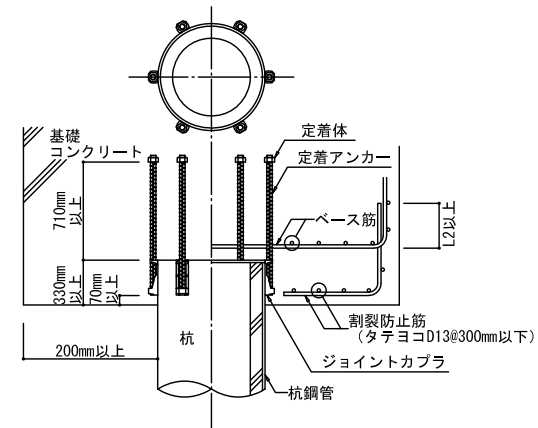
- 隣接するジョイントカプラの間隔は132mm以上とする。
- ジョイントカプラの高さ方向の取付け位置に対する許容差は+0mmかつ-5mmとする。
ジョイントカプラのめねじ部に差し込んだ定着アンカーのおねじ部は残り2山以下とする。
- ジョイントカプラの溶接長は溶接始端・終端の余長を含み260mm以上とする。
- 異形隅肉溶接は溶接目印以上とする。
- 定着アンカーの傾きの許容差は±1/100とする。
- ジョイントカプラの横方向の取付け位置に対する許容差は±3mmとする。

ジョイントカブラ工法[®] 施工要領図

(一財)日本建築センター評定 BCG評定-FD0554, FD0555
国土交通大臣認定 MSTL-0484

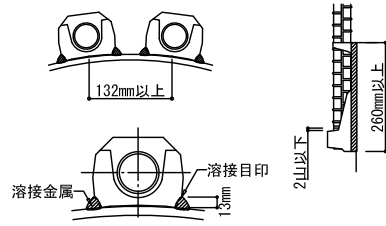
1. 設計・施工の詳細は、ジョイントカブラ工法「設計・施工指針」に準拠する。
2. 現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

杭頭接合部詳細図



検査項目 下図以外の検査項目は施工管理チェックシートによる。

- ・隣接するジョイントカブラの間隔は132mm以上とする。
- ・異形隅肉溶接は溶接目印以上とする。
- ・ジョイントカブラのめねじ部に差し込んだ定着アンカーのおねじ部は残り2山以下とする。
- ・ジョイントカブラの溶接長は接始端・終端の余長を含み260mm以上とする。
- ・定着アンカーの曲げ加工はできない。

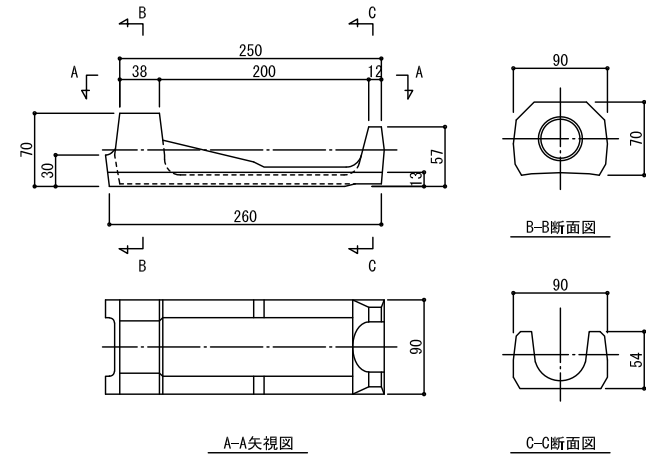


※ 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。
※ 基礎コンクリートの設計基準強度 $24 \leq F_c \leq 60$ (N/mm²)

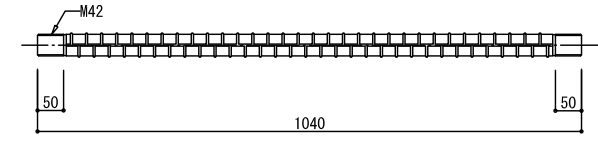
ジョイントカプラ工法[®] 部品図

(一財)日本建築センター評定 BCJ評定-FD0554, FD0555
国土交通大臣認定 MSTL-0484

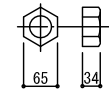
ジョイントカプラ (国土交通大臣認定品 MSTL-0484、SN490B相当)



定着アンカー D41 (JIS G3112、材種: SD490)



定着体 (JIS B1052、強度区分5以上)



杭頭接合法

ジョイントカプラ工法標準図

(一財)日本建築センター評定 BCJ評定-FD0554, FD0555
国土交通大臣認定 MSTL-0484



URL http://www.senqia.co.jp/

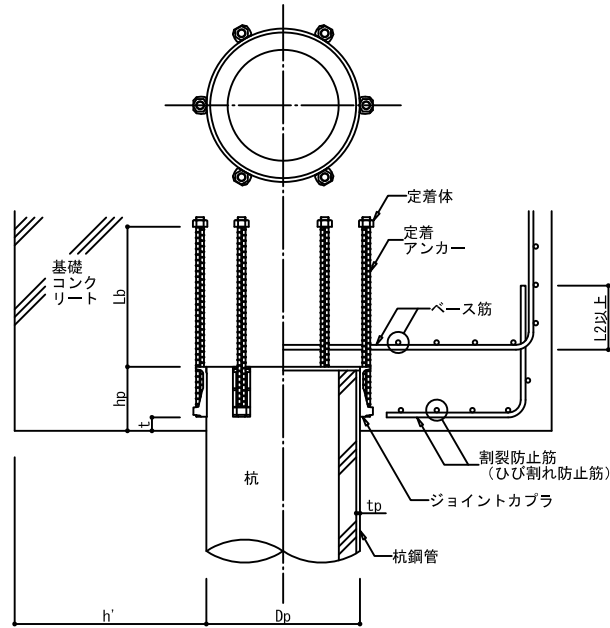
2018/8

本社 TEL 03-3615-5432 札幌 TEL 011-708-1177 横浜 TEL 045-548-9881 関西 TEL 06-6395-2133
東北 TEL 022-213-5595 中部 TEL 052-582-3356 中四国 TEL 082-240-1630
関東 TEL 027-322-9411 北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341

設計・施工の詳細は、ジョイントカプラ工法「設計・施工指針」に準拠する。
現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

1. 概要

ジョイントカプラ工法は、SC杭および鋼管杭の杭頭部にジョイントカプラを溶接した後、上端に定着体を有する定着アンカーの下端をジョイントカプラに螺合し、さらにジョイントカプラ内および杭頭部の周囲にコンクリートを打設することによって、杭頭部とパイルキャップを一体化する工法である。



構造規定

項目	内容
Dp : 杭径 (mm)	SC杭 : 400 ≤ Dp ≤ 1200 鋼管杭 : 400 ≤ Dp ≤ 1500
tp : 鋼管板厚 (mm) *1	tp ≥ 9
hp : 杭頭部の埋込み長 (mm) *2	hp ≥ 330
t : 設計かぶり厚 (mm)	t ≥ 70
Lb : 定着長 (mm) *3	Lb ≥ 710
h' : へりあき (mm)	h' ≥ 200 かつ構造耐力上必要な寸法以上
割れ防止筋 (ひび割れ防止筋)	タテヨコD13@300mm以下
Fc : 設計基準強度 (N/mm ²)	24 ≤ Fc ≤ 60

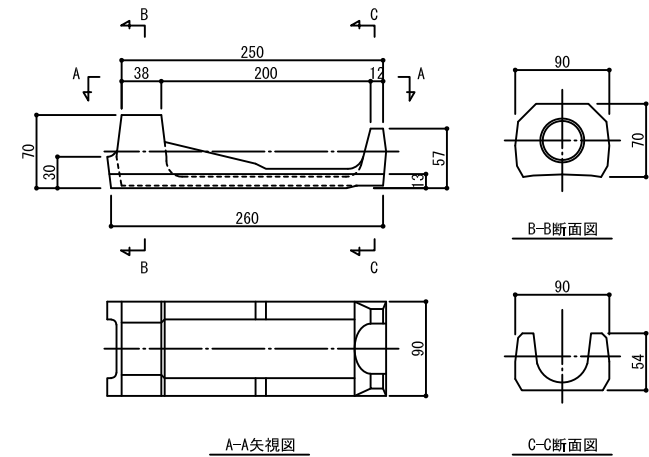
*1 杭材質SKK400相当は使用不可。
*2 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。
*3 定着長は、ジョイントカプラ上端から定着体下端までの長さ。

設置可能本数上限 (設置可能本数下限は4本)

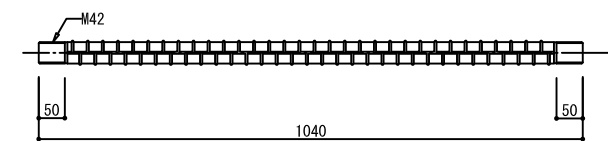
杭径 (mm)	400	450	500	600	700
本数 (本)	9	10	11	13	16
杭径 (mm)	800	900	1000	1100	1200
本数 (本)	18	20	22	24	26

2. 形状

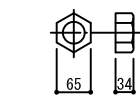
ジョイントカプラ (国土交通大臣認定品 MSTL-0484、SN490B相当)



定着アンカー D41 (JIS G3112、材質: SD490)



定着体 (JIS B1052、強度区分5以上)



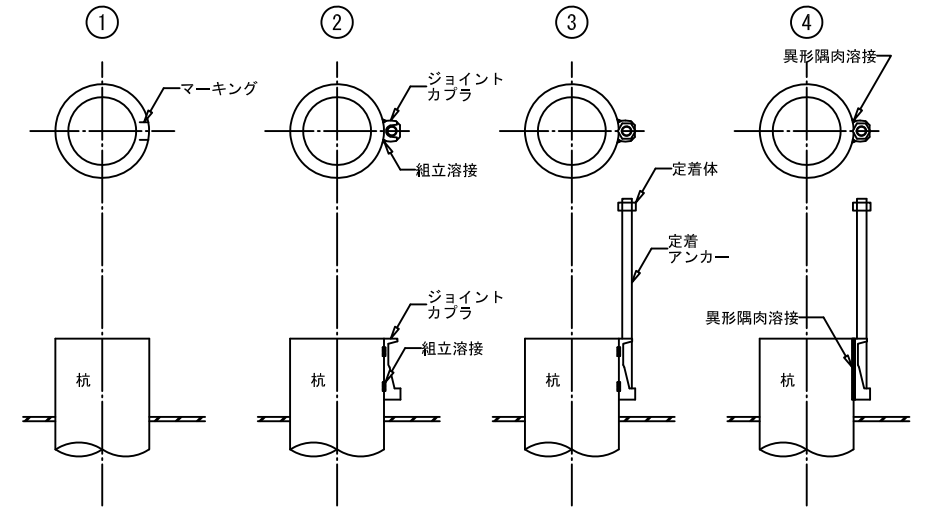
3. 施工

3.1. 施工管理および施工

本工法の施工管理は、評定取得会社により教育・技術指導を受けた現場管理者が行うことが義務づけられている。
溶接は被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接の資格者が行うこと。

3.2. 施工手順

- ① ジョイントカプラ取付け位置の清掃とマーキング
 - ② ジョイントカプラの組立溶接
ジョイントカプラの配置検査
 - ③ 定着アンカーのねじ込み
定着体の取付け
定着アンカー接合部の検査
 - ④ ジョイントカプラの溶接 (異形隅肉溶接)
ジョイントカプラ溶接部の検査 (外観検査)
- 完了



注1) 定着アンカーの曲げ加工はできないため、配筋の干渉をよく確認すること。
注2) 上記は標準的な施工例である。現場の状況等により適切な施工手順を選択すること。
注3) ジョイントカプラと定着アンカーのねじ部が汚れないよう、搬入後は養生し、組立溶接後は速やかに定着アンカーのねじ込みを行うこと。
注4) 溶接材料は下記の規格を満たし、490N/mm²級高張力鋼に適用可能なものを使用する。
被覆アーク溶接: 軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒 (JIS Z3211、旧JIS Z3212-1999)
ガスシールドアーク溶接: 軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ (JIS Z3312)
軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ (JIS Z3313)

3.3. 検査項目

本標準図以外の検査項目および検査基準は施工管理チェックシートによる。

- 隣接するジョイントカプラの間隔は132mm以上とする。
- ジョイントカプラの高さ方向の取付け位置に対する許容差は+0mmかつ-5mmとする。
ジョイントカプラのめねじ部に差し込んだ定着アンカーのおねじ部は残り2山以下とする。
- 異形隅肉溶接は溶接目印以上とする。
- 定着アンカーの傾きの許容差は±1/100とする。
- ジョイントカプラの横方向の取付け位置に対する許容差は±3mmとする。
- ジョイントカプラの溶接長は溶接始端・終端の余長を含み260mm以上とする。

誤記修正

杭頭接合法

ジョイントカブラ工法標準図

(一財)日本建築センター評定 BCJ評定-FD0554, FD0555
国土交通大臣認定 MSTL-0484

センクシア株式会社

URL http://www.senqcia.co.jp/

2018/2

本社 TEL 03-3615-5432

札幌 TEL 011-708-1177

横浜 TEL 045-548-9881

関西 TEL 06-6395-2133

東北 TEL 022-213-5595

中部 TEL 052-582-3356

中四国 TEL 082-240-1630

関東 TEL 027-322-9411

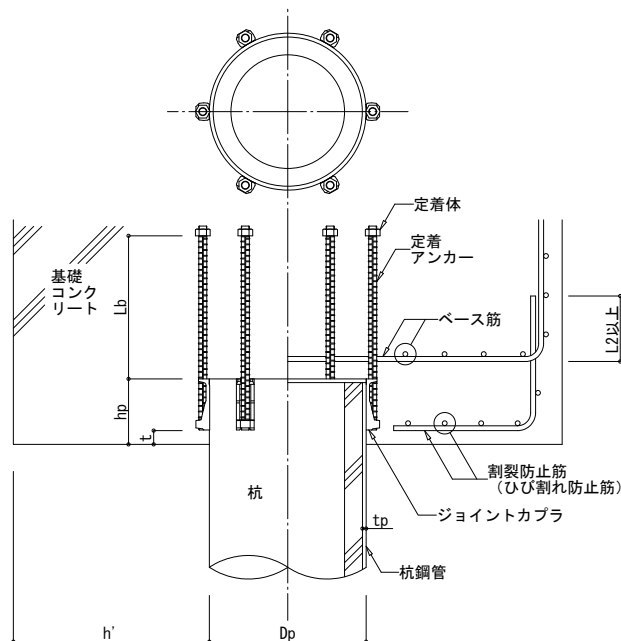
北陸 TEL 076-233-5260

九州 TEL 092-452-0341

設計・施工の詳細は、ジョイントカブラ工法「設計・施工指針」に準拠する。
現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

1. 概要

ジョイントカブラ工法は、SC杭および鋼管杭の杭頭部にジョイントカブラを溶接した後、上端に定着体を有する定着アンカーの下端をジョイントカブラに螺合し、さらにジョイントカブラ内および杭頭部の周囲にコンクリートを打設することによって、杭頭部とパイルキャップを一体化する工法である。



項目	内容
Dp: 杭径 (mm)	SC杭 : 400 ≤ Dp ≤ 1200 鋼管杭 : 400 ≤ Dp ≤ 1500
tp: 鋼管板厚 (mm) ※1	tp ≥ 9
hp: 杭頭部の埋込み長 (mm) ※2	hp ≥ 330
t: 設計かぶり厚 (mm)	t ≥ 70
Lb: 定着長 (mm) ※3	Lb ≥ 710
h': へりあき (mm)	h' ≥ 200 かつ構造耐力上必要な寸法以上
割裂防止筋 (ひび割れ防止筋)	タテヨコD13@300mm以下
Fc: 設計基準強度 (N/mm ²)	24 ≤ Fc ≤ 60

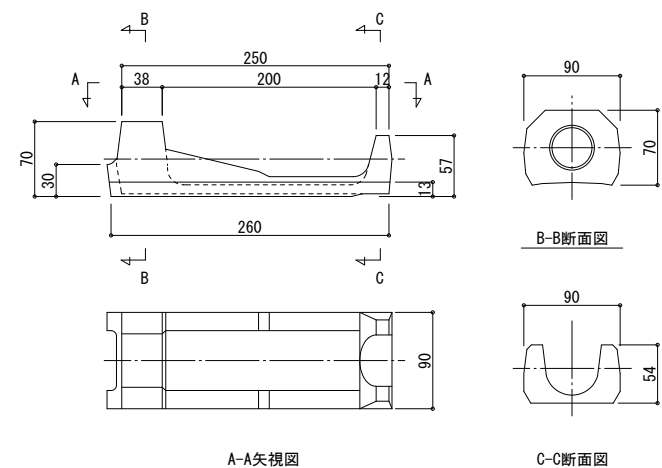
※1 杭材質SKK400相当は使用不可。
※2 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。
※3 定着長は、ジョイントカブラ上端から定着体下端までの長さ。

設置可能本数上限 (設置可能本数下限は4本)

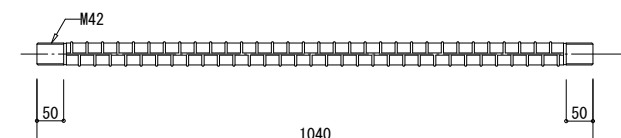
杭径 (mm)	400	450	500	600	700
本数 (本)	9	10	11	13	16
杭径 (mm)	800	900	1000	1100	1200
本数 (本)	18	20	22	24	26

2. 形状

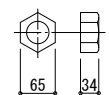
ジョイントカブラ (国土交通大臣認定品 MSTL-0484, SN490B相当)



定着アンカー D41 (JIS G3112, 材種: SD490)



定着体 (JIS B1052, 強度区分5以上)

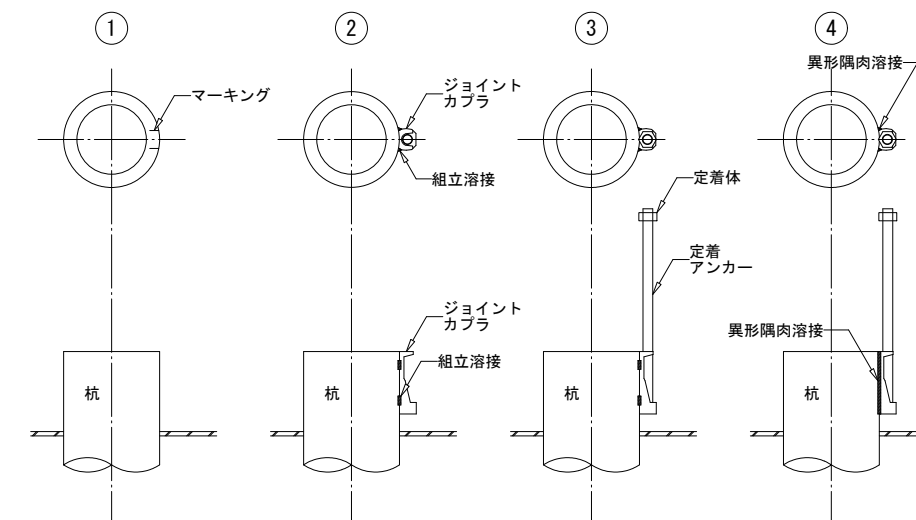
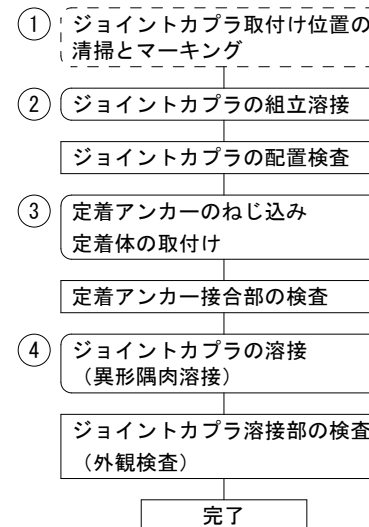


3. 施工

3.1. 施工管理および施工

本工法の施工管理は、評定取得会社により教育・技術指導を受けた現場管理者が行うことが義務づけられている。溶接は被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接の資格者が行うこと。

3.2. 施工手順



- 注1) 定着アンカーの曲げ加工はできないため、配筋の干渉をよく確認すること。
- 注2) 上記は標準的な施工例である。現場の状況等により適切な施工手順を選択すること。
- 注3) ジョイントカブラと定着アンカーのねじ部が汚れないよう、搬入後は養生し、組立溶接後は速やかに定着アンカーのねじ込みを行うこと。
- 注4) 溶接材料は下記の規格を満たし、490N/mm²級高張力鋼に適用可能なものを使用する。
被覆アーク溶接: 軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒 (JIS Z3211、旧JIS Z3212-1999)
ガスシールドアーク溶接:
軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ (JIS Z3312)
軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ (JIS Z3313)

3.3. 検査項目

本標準図以外の検査項目および検査基準は施工管理チェックシートによる。

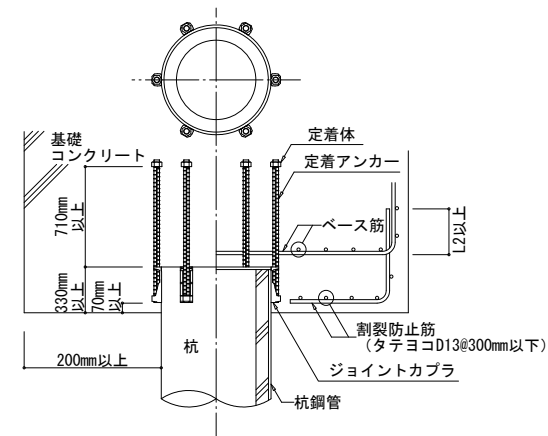
- 隣接するジョイントカブラの間隔は132mm以上とする。
- ジョイントカブラの高さ方向の取付け位置に対する許容差は+0mmかつ-5mmとする。
ジョイントカブラのめねじ部に差し込んだ定着アンカーのおねじ部は残り2山以下とする。
- 異形隅肉溶接は溶接目印以上とする。
- 定着アンカーの傾きの許容差は±1/100とする。
- ジョイントカブラの溶接長は溶接始端・終端の余長を含み260mm以上とする。
- ジョイントカブラの高さ方向取付け位置に対する許容差は±3mmとする。

ジョイントカブラ工法 施工要領図

(一財)日本建築センター評定 BCGJ評定-FD0554, FD0555
国土交通大臣認定 MSTL-0484

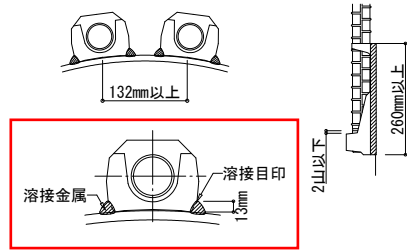
1. 設計・施工の詳細は、ジョイントカブラ工法「設計・施工指針」に準拠する。
2. 現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

杭頭接合部詳細図



検査項目 下図以外の検査項目は施工管理チェックシートによる。

- ・隣接するジョイントカブラの間隔は132mm以上とする。
- ・異形隅肉溶接は溶接目印以上とする。
- ・ジョイントカブラのめねじ部に差し込んだ定着アンカーのおねじ部は残り2山以下とする。
- ・ジョイントカブラの溶接長は接始端・終端の余長を含み260mm以上とする。
- ・定着アンカーの曲げ加工はできない。



※ 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。
 ※ 基礎コンクリートの設計基準強度 $24 \leq F_c \leq 60$ (N/mm²)

杭頭接合法

ジョイントカブラ工法標準図

(一財)日本建築センター評定 BCJ評定-FD0554, FD0555
国土交通大臣認定 MSTL-0484

センクシア株式会社

本社 TEL 03-3615-5432

札幌 TEL 011-708-1177

URL <http://www.senqcia.co.jp/>

横浜 TEL 045-548-9881

東北 TEL 022-213-5595

中部 TEL 052-582-3356

関東 TEL 027-322-9411

北陸 TEL 076-233-5260

関西 TEL 06-6395-2133

中四国 TEL 082-240-1630

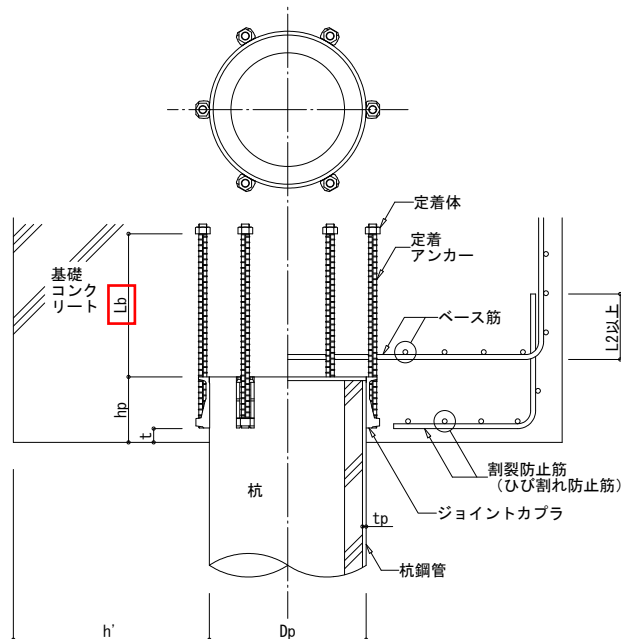
九州 TEL 092-452-0341

2018/1

設計・施工の詳細は、ジョイントカブラ工法「設計・施工指針」に準拠する。
現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

1. 概要

ジョイントカブラ工法は、SC杭および鋼管杭の杭頭部にジョイントカブラを溶接した後、上端に定着体を有する定着アンカーの下端をジョイントカブラに螺合し、さらにジョイントカブラ内および杭頭部の周囲にコンクリートを打設することによって、杭頭部とパイルキャップを一体化する工法である。



構造規定

項目	内容
Dp : 杭径 (mm)	SC杭 : 400 ≤ Dp ≤ 1200 鋼管杭 : 400 ≤ Dp ≤ 1500
tp : 鋼管板厚 (mm) ※1	tp ≥ 9
hp : 杭頭部の埋込み長 (mm) ※2	hp ≥ 330
t : 設計かぶり厚 (mm)	t ≥ 70
Lb : 定着長 (mm) ※3	Lb ≥ 710
h' : へりあき (mm)	h' ≥ 200 かつ構造耐力上必要な寸法以上
割裂防止筋 (ひび割れ防止筋)	タテヨコD13@300mm以下
Fc : 設計基準強度 (N/mm ²)	24 ≤ Fc ≤ 60

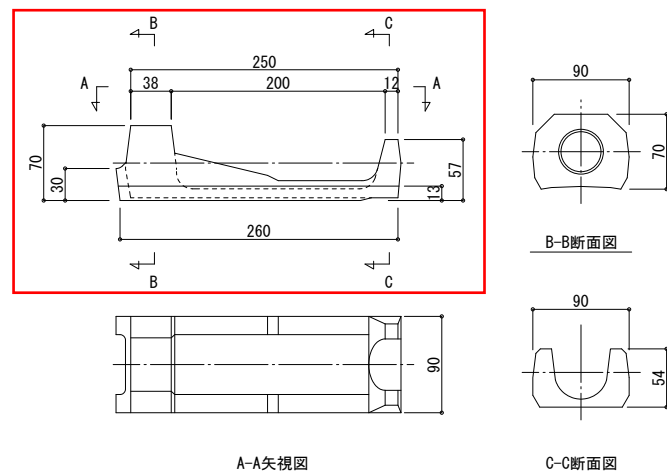
※1 杭材質SKK400相当は使用不可。
※2 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。
※3 定着長は、ジョイントカブラ上端から定着体下端までの長さ。

設置可能本数上限 (設置可能本数下限は4本)

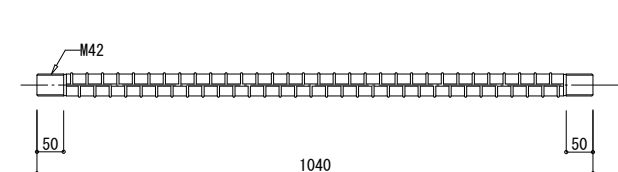
杭径 (mm)	400	450	500	600	700
本数 (本)	9	10	11	13	16
杭径 (mm)	800	900	1000	1100	1200
本数 (本)	18	20	22	24	26

2. 形状

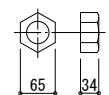
ジョイントカブラ (国土交通大臣認定品 MSTL-0484, SN490B相当)



定着アンカー D41 (JIS G3112、材質: SD490)



定着体 (JIS B1052、強度区分5以上)



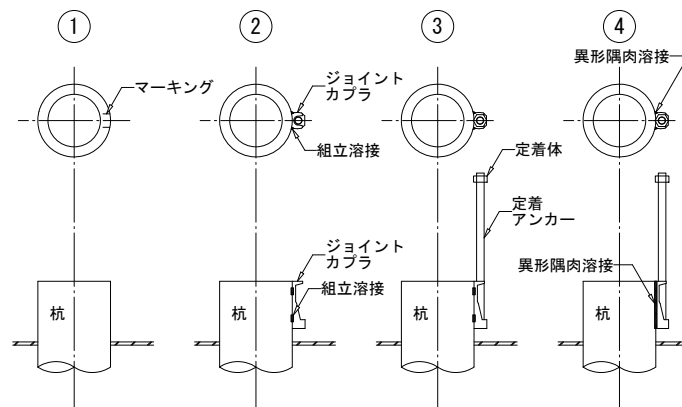
3. 施工

3.1. 施工管理および施工

本工法の施工管理は、評定取得会社により教育・技術指導を受けた現場管理者が行うことが義務づけられている。
溶接は被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接の資格者が行うこと。

3.2. 施工手順

- ① ジョイントカブラ取付け位置の清掃とマーキング
 - ② ジョイントカブラの組立溶接
ジョイントカブラの配置検査
 - ③ 定着アンカーのねじ込み
定着体の取付け
定着アンカー接合部の検査
 - ④ ジョイントカブラの溶接 (異形隅肉溶接)
ジョイントカブラ溶接部の検査 (外観検査)
- 完了



- 注1) 定着アンカーの曲げ加工はできないため、配筋の干渉をよく確認すること。
注2) 上記は標準的な施工例である。現場の状況等により適切な施工手順を選択すること。
注3) ジョイントカブラと定着アンカーのねじ部が汚れないよう、搬入後は養生し、組立溶接後は速やかに定着アンカーのねじ込みを行うこと。

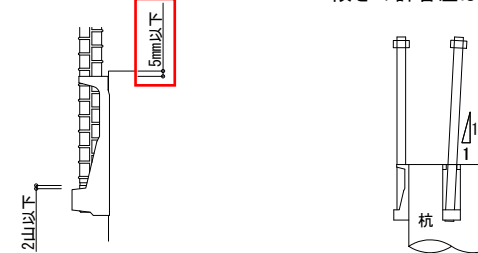
3.3. 検査項目

本標準図以外の検査項目および検査基準は施工管理チェックシートによる。

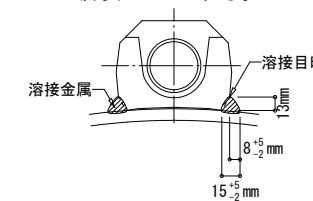
- 隣接するジョイントカブラの間隔は132mm以上とする。
- ジョイントカブラの横方向の取付け位置に対する許容差は±3mmとする。



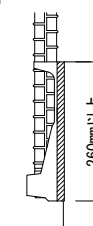
- ジョイントカブラの高さ方向の取付け位置に対する許容差は+0mmかつ-5mmとする。
- ジョイントカブラのめねじ部に差し込んだ定着アンカーのおねじ部は残り2山以下とし、定着アンカーの傾きの許容差は±1/100とする。



- 异形隅肉溶接は溶接目印以上かつ脚長8.0mmとする。



- ジョイントカブラの溶接長は溶接始端・終端の余長を含み260mm以上とする。

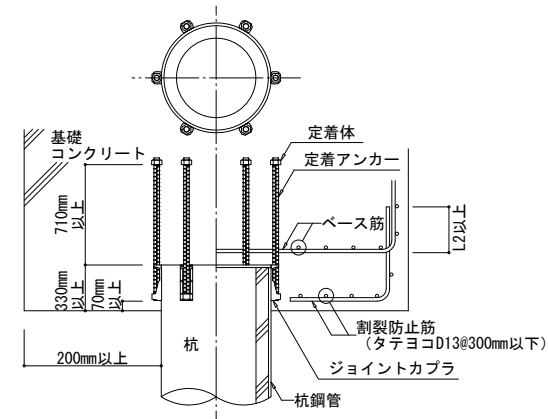


ジョイントカブラ工法 施工要領図

(一財)日本建築センター評定 BCGJ評定-FD0554, FD0555
国土交通大臣認定 MSTL-0484

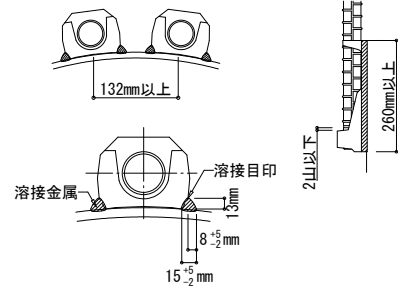
1. 設計・施工の詳細は、ジョイントカブラ工法「設計・施工指針」に準拠する。
2. 現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

杭頭接合部詳細図



検査項目 下図以外の検査項目は施工管理チェックシートによる。

- ・隣接するジョイントカブラの間隔は132mm以上とする。
- ・異形隅肉溶接は溶接目印以上かつ脚長8.0mmとする。
- ・ジョイントカブラのめねじ部に差し込んだ定着アンカーのおねじ部は残り2山以下とする。
- ・ジョイントカブラの溶接長は接始端・終端の余長を含み260mm以上とする。
- ・定着アンカーの曲げ加工はできない。

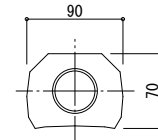
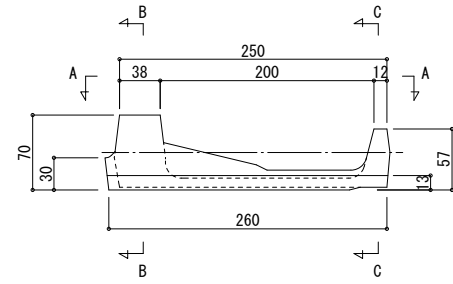


※ 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。
※ 基礎コンクリートの設計基準強度 $24 \leq F_c \leq 60$ (N/mm²)

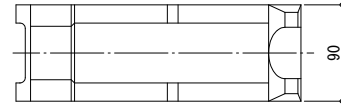
ジョイントカブラ工法 部品図

(一財)日本建築センター評定 BQJ評定-FD0554, FD0555
国土交通大臣認定 MSTL-0484

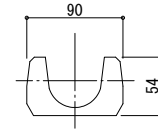
ジョイントカブラ (国土交通大臣認定品 MSTL-0484、SN490B相当)



B-B断面図

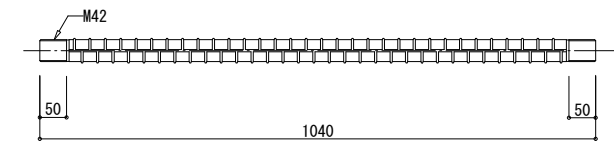


A-A矢視図

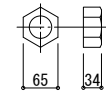


C-C断面図

定着アンカー D41 (JIS G3112、材種 : SD490)



定着体 (JIS B1052、強度区分5以上)

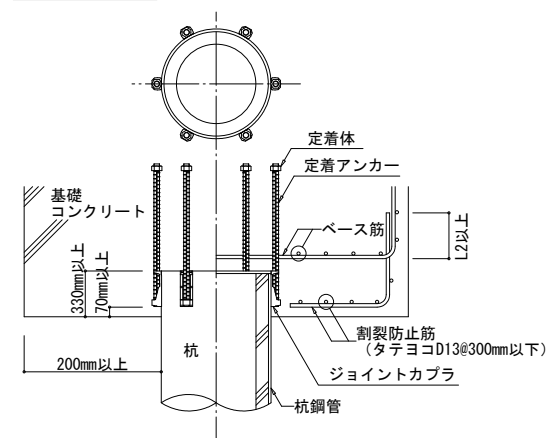


ジョイントカブラ工法 施工要領図

(一財)日本建築センター評定 BCGJ評定-FD0554, FD0555
国土交通大臣認定 MSTL-0484

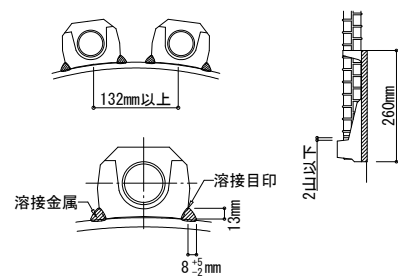
1. 設計・施工の詳細は、ジョイントカブラ工法「設計・施工指針」に準拠する。
2. 現場管理者は、センクシアへ施工管理チェックシートの提出もしくは管理状況の報告をする。

杭頭接合部詳細図



検査項目 下図以外の検査項目は施工管理チェックシートによる。

- ・隣接するジョイントカブラの間隔は132mm以上とする。
- ・異形隅肉溶接は溶接目印以上かつ脚長8.0mmとする。
- ・ジョイントカブラのめねじ部に差し込んだ定着アンカーのおねじ部は残り2山以下とする。
- ・ジョイントカブラの溶接長は接始端・終端の余長を含み260mmとする。
- ・定着アンカーの曲げ加工はできない。

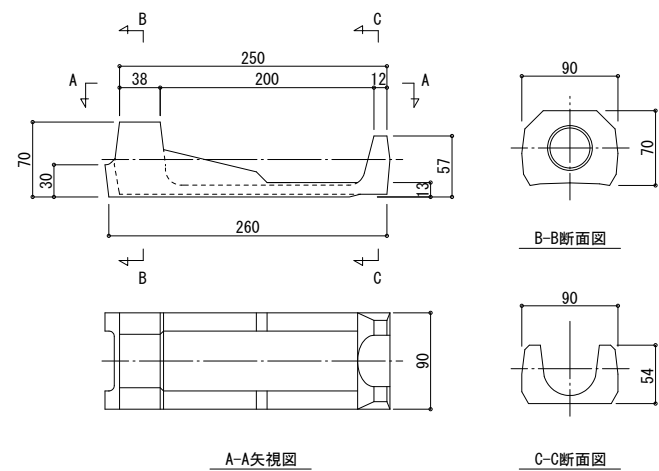


- ※ 鋼管杭の場合には、中詰めコンクリートを埋込み長以上充填する。
- ※ 基礎コンクリートの設計基準強度 $24 \leq F_c \leq 60$ (N/mm²)

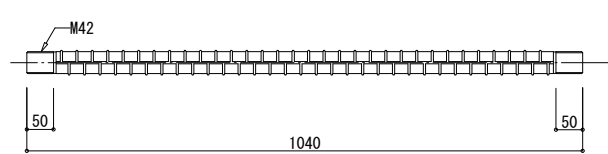
ジョイントカプラ工法 部品図

(一財)日本建築センター評定 BQJ評定-FD0554, FD0555
国土交通大臣認定 MSTL-0484

ジョイントカプラ (国土交通大臣認定品 MSTL-0484、SN490B相当)



定着アンカー D41 (JIS G3112、材種 : SD490)



定着体 (JIS B1052、強度区分5以上)

